

事項	ベンジルアミノプリン液剤(ビーエー液剤)を処理したおうとう苗木は側枝数が増加する													
ねらい	おうとうでは苗木の副梢数が多いと、側枝や花束状短果枝が増加して初期収量の確保に有利である。副梢を発生させる植物生育調節剤として、ベンジルアミノプリン液剤が登録され、効果が確認されたので参考に供する。													
指導内容	<p>1 ベンジルアミノプリン液剤の使い方</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>使用対象</th> <th>散布濃度</th> <th>使用時期</th> <th>使用方法</th> <th>展着剤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>おうとう(苗木)</td> <td>25～50倍</td> <td>新梢伸長時(主幹延長枝の30～50cm伸長期)</td> <td>主幹延長枝に散布</td> <td>不要</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 未結果樹で使用する。  (2) 散布量は、薬液が葉からしずくとなって落ちる程度に葉の表裏に丁寧に散布する。  (3) 使用時期は例年では6月～7月上旬である。  (4) 本剤は生長の旺盛な新梢ほど効果が高い。主幹延長枝の伸長を促すために、散布前に主幹延長枝と競合する新梢は剪去する。  (5) 「南陽」は副梢が発生しにくいので25倍で使用する。</p> <p>2 ベンジルアミノプリン液剤の農薬登録内容</p> <p>(1) 薬剤名等  ア 一般名：ベンジルアミノプリン液剤  イ 商品名：ビーエー液剤  ウ 有効成分：ベンジルアミノプリン 3%  エ 人畜毒性：普通、魚毒性：A</p> <p>(2) 使用基準  ア 登録年月：平成18年12月  イ 作物名：おうとう(苗木)  ウ 使用目的：副梢発生促進  エ 希釈倍数：25～50倍  オ 使用時期：新梢伸長時(主幹延長枝の30～80cm伸長期)  カ 使用方法：立木全面散布  キ 本剤の使用回数：1回  ク ベンジルアミノプリンを含む農薬の総使用回数：1回</p>				使用対象	散布濃度	使用時期	使用方法	展着剤	おうとう(苗木)	25～50倍	新梢伸長時(主幹延長枝の30～50cm伸長期)	主幹延長枝に散布	不要
使用対象	散布濃度	使用時期	使用方法	展着剤										
おうとう(苗木)	25～50倍	新梢伸長時(主幹延長枝の30～50cm伸長期)	主幹延長枝に散布	不要										
期待される効果	苗木の副梢数の増加により、側枝数と花束状短果枝数が多くなり、初期収量をより多く確保できる。													
利用上の注意事項	<p>1 本資料は平成19年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(<a href="http://www.maff.go.jp/nouyaku/">http://www.maff.go.jp/nouyaku/</a>)を確認すること。</p> <p>3 新梢基部等の薬液の乾きにくい葉で褐変を生じる場合があるが、その後の生育には影響しない。</p>													
担当部署(担当者名)	青森県農林総合研究センターりんご試験場 県南果樹研究センター (工藤秀樹、久保 隆)	対象地域	県下全域											
発表文献等	平成13～17年度 りんご試験場県南果樹研究センター試験成績概要集 東北農業研究 第57号 平成18年度 園芸学会東北支部													

【根拠となった主要な試験結果】

表1 品種別の副梢数

(平成13、15、16年 青森農林総研りんご試県南果研セ)

処理濃度	佐藤錦			南陽		紅秀峰	紅さやか	Jのしずく
	(平成)13年	15年	16年	13年	15年	13年	13年	13年
25倍	10.7(本/樹)	9.2	4.0	5.6	3.6	—	—	—
50倍	6.6	9.6	5.0	1.8	2.4	8.7	6.0	9.0
対照区	0.0	0.0	1.0	0.3	0.4	3.8	0.7	2.7

- (注) 1 ビーエー液剤は主幹延長枝の30~40cm伸長期(6月上旬~下旬)にハンドスプレーで散布した。  
 2 副梢数は落葉後に長さ1cm以上のものを調査した。  
 3 調査樹数は1区3~10樹。いずれも接ぎ木2~3年目の苗木で台木はアオバザクラ。

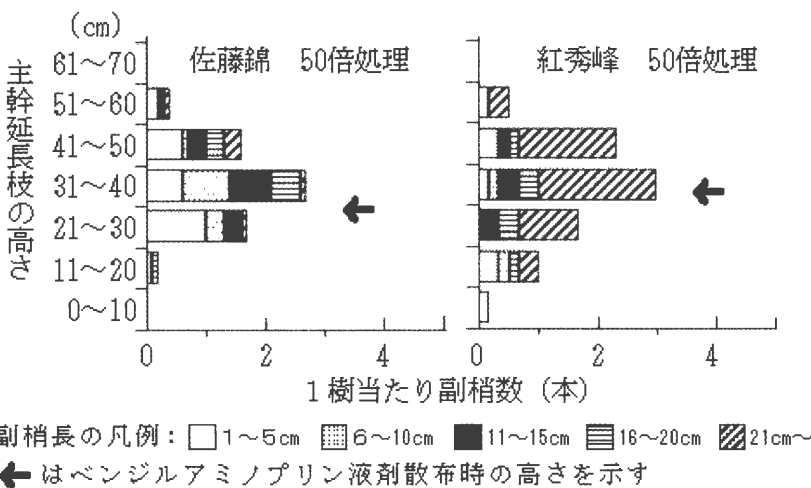


図1 主幹延長枝の長さ別の副梢数と副梢長

(平成13年 青森農林総研りんご試県南果研セ)

(注) 「佐藤錦」は接ぎ木2年目、「紅秀峰」は接ぎ木3年目の苗木。



写真2 副梢の発生状況

(平成17年 青森農林総研りんご試県南果研セ)

(注) 品種は「佐藤錦」。主幹延長枝の落葉後の状態。

表2 ベンジルアミノプリン液剤を連年処理した苗木の側枝や花束状短果枝等の状態

(平成15~17年 青森農林総研りんご試県南果研セ)

処理濃度	副梢数 (本/樹)		側枝数 (本/樹)	総側枝長 (cm/樹)	花束状短果枝数 (個/樹)
	接ぎ木2年目	接ぎ木3年目			
25倍	9.2	4.0	14.6	827	114.2
対照区	0.0	1.0	6.4	457	57.0

- (注) 1 品種は「佐藤錦」。調査樹数は各5樹。  
 2 接ぎ木2、3年目(平成15、16年)に各1回、ベンジルアミノプリン液剤25倍液を散布した。  
 3 側枝数、総側枝長及び花束状短果枝数は接ぎ木4年目(平成17年)の落葉後に調査。  
 4 側枝数は主幹から発生している枝齢が2年生以上で花束状短果枝が着生している枝を調査。  
 5 総側枝長は2~3年生側枝の合計長。花束状短果枝数は花芽が2芽以上着生した枝を調査。